

TYO 5290

VERTEX

株式会社ベルテクスコーポレーション

株式会社IHI建材工業の 株式取得について

2025年3月27日

当社は、都市インフラに欠かせないセグメント製品等を扱う「株式会社 IHI建材工業」の全株式を取得することを決議し、2025年3月27日付で株式譲渡契約を締結いたしましたので、お知らせいたします

株式会社IHI建材工業

設立	1974年12月
所在地	東京都墨田区両国 二丁目10番14号
従業員数	195名
取得価額	1,264百万円 (概算額)
株式譲渡実行日	2025年10月1日 (予定)
異動前の株主	株式会社 IHI 100%

決算期	22/3期	23/3期	24/3期
純資産	5,363	4,577	3,680
売上高	15,186	10,293	12,613
営業利益	1,102	17	△11
経常利益	1,080	△114	△57
当期純損益	712	△163	△50

■ セグメント事業 (主事業)

地下鉄・道路トンネル・下水道・地下河川などのシールドトンネル工法に用いられるRCセグメント・鋼製セグメント・合成セグメントを提供



■ プレキャスト事業

トンネル内部で使用されるプレキャスト製品等を提供

■ エンジニアリング事業

重要インフラ設備に対する浸水対策・止水ソリューション等の提供

■ カーボンニュートラル事業

CO2排出量削減・耐酸性・水密性に優れたジオポリマーコンクリート「セメノン®」を主としたカーボンニュートラルに関する事業

IHI建材工業との経営統合により、当社グループは新たなステージへの飛躍を目指します

01

コア事業である下水道・浸水対策事業領域における幅広い展開による 基盤強化とシナジー創出

- ・当社グループが強みを発揮する下水道・浸水対策事業に、IHI建材工業のセグメント製品群が加わることで、地下トンネル調節池や地下河川事業への参画が可能

02

両社の力を結集することによる、大規模なインフラ事業や大型プロジェクト への参画

- ・全国各地で計画・実施されている、高規格道路や地下鉄などの大規模なインフラ事業や大型プロジェクトへの参画が加速度的に進むことで社会インフラの発展に貢献

03

両社の生産・技術・営業のノウハウを融合し、革新的な新素材や新製品の 開発を推進

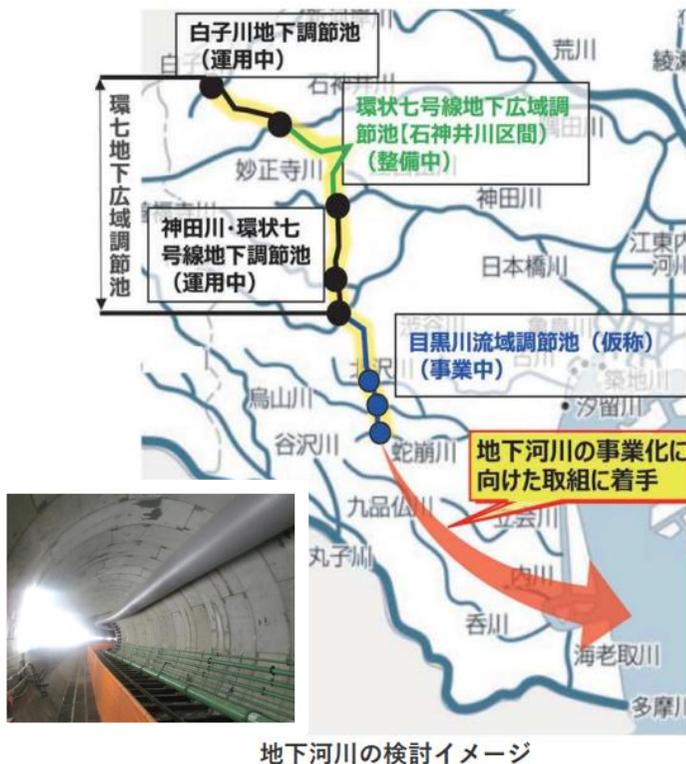
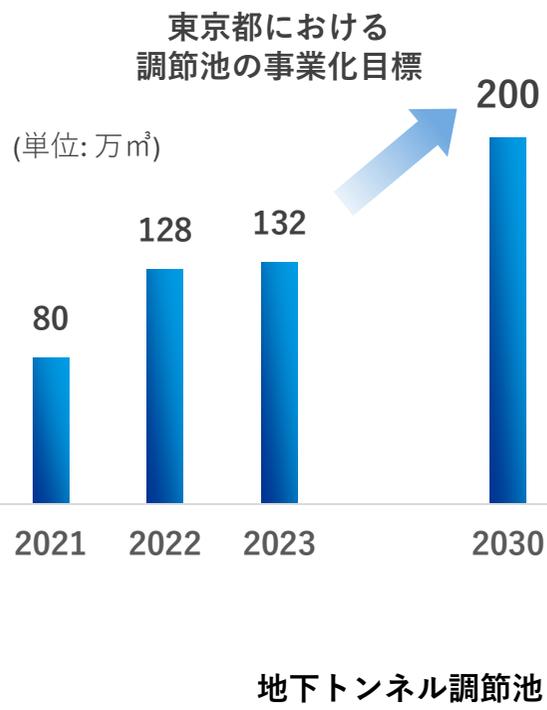
- ・両社の技術融合による新製品・新材料開発などで、持続可能な社会の構築に貢献

01 コア事業である下水道・浸水対策事業領域における幅広い展開による基盤強化とシナジー創出

当社グループが強みを発揮する下水道・浸水対策事業に、IHI建材工業のセグメント製品群が加わることで、地下トンネル調節池や地下河川事業への参画が可能

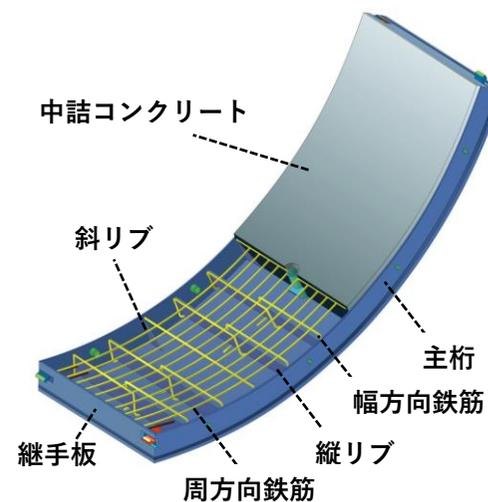
- ・ 近年のゲリラ豪雨の増加などを踏まえ、各地で治水のための地下トンネル調節池の整備が計画されており、今後、数千億円規模の事業予算が期待出来る市場と試算
- ・ 地下トンネル調節池には内水圧が生じるため、IHI建材工業が扱う、内水圧に強い“合成セグメント”に期待

■ 東京都における今後の地下空間利用



■ 合成セグメントとは

- ・ 5面を鋼板で覆われた鋼殻内部に鉄筋と鋼材を配置し鋼材とコンクリートを一体化したセグメント
- ・ 構造上、内水圧に強く、治水需要に対応力が高い
- ・ プレーヤーの少ない領域であり、競合製品に対してコスト面で優位



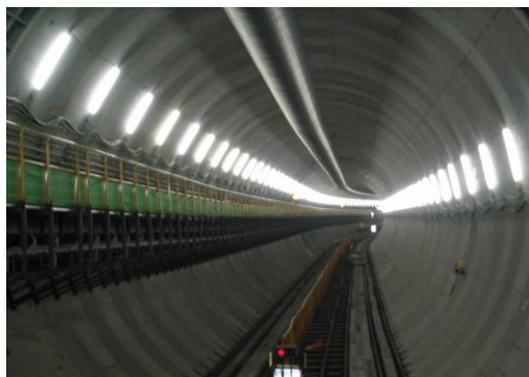
引用) 東京都建設局 『東京都における地下空間を利用した治水施設』 (2024)

02 両社の力を結集することによる、大規模なインフラ事業や大型プロジェクトへの参画

全国各地で計画・実施されている高規格道路や地下鉄などの大規模なインフラ事業や大型プロジェクトへの参画が加速度的に進むことで社会インフラの発展に貢献



鉄道用トンネル



高規格道路用トンネル

・東京メトロ有楽町線、南北線延伸での需要の取り込み

■ 地下鉄延伸計画

2030年代半ばの開業を目指す



引用) 東京地下鉄株式会社 ホームページ
(2024年11月5日 ニュースリリース) より

03 両社の生産・技術・営業のノウハウを融合し、革新的な新素材や新製品の開発を推進

両社の技術融合による新製品・新材料開発などで、持続可能な社会の構築に貢献

- ・ 下水道管内で発生する硫化水素や硫酸などの腐食環境対策への幅広い展開

■ 耐硫酸性・長寿命コンクリートのラインナップの充実



結合剤に70%を超える高炉スラグ微粉末を配合したコンクリート

低コスト
耐塩害性 (type-S) **低炭素** 耐硫酸性 (type-A)
長寿命
CO2削減率60%以上

普通コンクリート LLクリート

ベルテクス



メタカオリン、フライアッシュ等のアルカリに活性な粉体（活性フィラー）と水ガラス等のアルカリシリカ溶液の縮重合反応により生成される固化体。
セメントを全く使用しないコンクリート

従来コンクリート	セメノン®
従来コンクリート 3体平均の質量減少率: 47.7%	セメノン® 3体平均の質量減少率: 3.4%
評価基準: 質量変化率10%未満	
「下水道コンクリート構造物の腐食抑制技術及び防食技術マニュアル平成29年12月」参照	
5%硫酸水溶液に112日間浸漬したコンクリート試験体の状況	

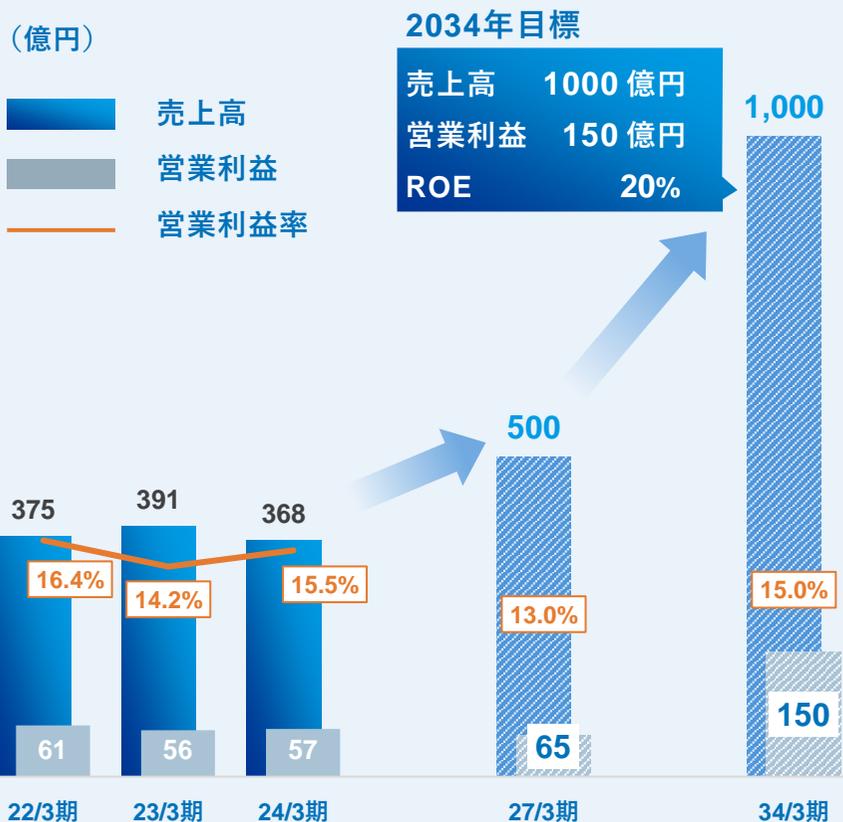
IHI建材工業



Appendix

売上高 1,000億円、営業利益 150億円 を目指すVERTEX Vision 2034 と合わせて第3次中期経営計画を策定
経営統合後の絞り込みを終え、売上を拡大するとともに10年後を見据えた経営体制の構築に取り組む

■ 売上・営業利益推移及び中長期目標



2034年目標
 売上高 1000 億円
 営業利益 150 億円
 ROE 20%

第2次中計 (22/3~24/4)

- 製品の絞り込み
- 高利益率の安定化
- 次期の基盤事業の育成

第3次中計 (25/3~27/3)

- 基盤事業の収益拡大
- 育成事業の成長
- 長期的成長に向けた事業PFの強化

■ 第3次中期経営計画の戦略概要

基盤事業	コンクリート事業 (雨水浸水対策、下水など)	第2次中計にて絞り込んだ製品群の販売強化と付加価値化による成長と効率化
	斜面防災事業	防災・減災や国土強靱化に伴う需要の獲得による成長
育成事業	コンクリート事業 (インフラメンテナンス)	労働人口不足を背景とするワンストップ対応のニーズの獲得による成長
	コンクリート事業 (鉄道)	鉄道事業者・ゼネコンとの協力による顧客ニーズに合致した製品開発と拡販
	油圧ホースメンテナンス事業	関東圏で確立した事業モデルの他地域への横展開

■ 第3次中期経営計画におけるキャッシュ・アロケーション

ストック+キャッシュインフロー		キャッシュ・アロケーション戦略	
24/3期末における現預金	139億円	手元資金	100億円
		株主還元※	65億円
3か年の営業CF	156億円	成長投資	60億円+α
		更新投資	60億円
		長期借入返済	10億円

負債の活用による資本効率の改善

※ 配当性向30%、総還元性向50%以上

オーガニック成長に加え、M&Aを通じた事業ポートフォリオの強化・拡大を狙う

本中期経営計画期間のM&A戦略投資枠

M&A
投資枠 **100~150** 億円

主に営業キャッシュフローと借入を活用
したM&A戦略投資枠を設定

今後のM&A強化に向けた社内体制

M&A対応人員強化により
案件情報の量と質を高める

量：あらゆるチャンネルを駆使して案件情報を収集
質：良好な関係性を構築し、良質な情報収集を目指す

M&Aターゲットの方向性

- 防災・減災・国土強靱化を軸とし、既存事業の機能強化・周辺領域展開が見込める企業
- 当社が選定する成長市場（インフラメンテナンス、防衛、鉄道）に対して提供するプロダクト・サービスを有する企業
- 官公庁に強いプロダクト・サービスを提供する企業
- 事業ポートフォリオの強化・拡大が見込める事業を有する企業（ただし既存事業の強みが活かせるシナジーが期待できる事業）

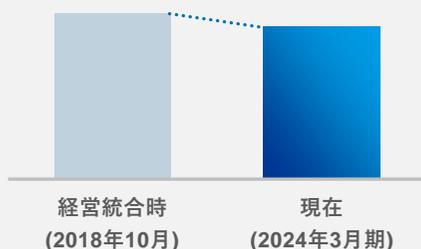
蓄積してきたノウハウと資本力を通し、経営統合・M&A後の確かな利益成長を実現

コンクリート事業

ベルテクス株式会社

主要製品の統一ブランド化、販売品目の選別、付加価値製品シフトにより、高収益事業の大きく成長

売上高CAGR Δ 1.6%



営業利益CAGR + 23.4%

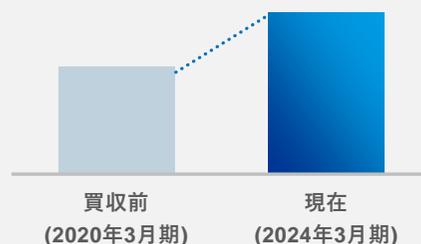


コンクリート事業 + 防災事業

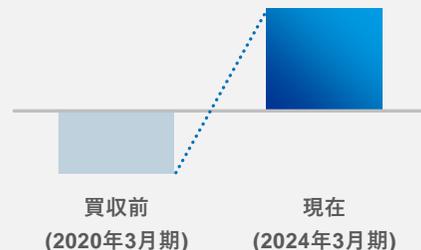
九州ベルテクス株式会社

コンクリート事業の九州エリア展開と防災事業の強化により、早期に黒字化を実現

売上高CAGR + 10.7%



営業利益 黒字化

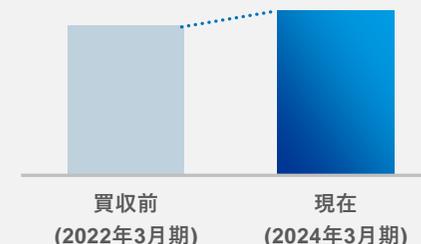


その他 (油圧ホースメンテナンス事業)

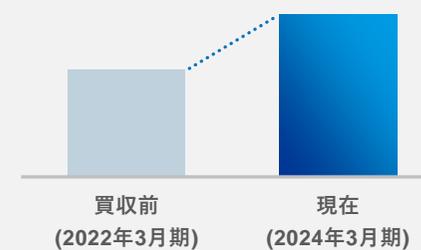
プロフレックス株式会社

2022年10月にM&Aによりグループ参画後、当社ノウハウを注入することにより、予定より早い成長を実現

売上高CAGR + 4.7%



営業利益CAGR + 22.7%

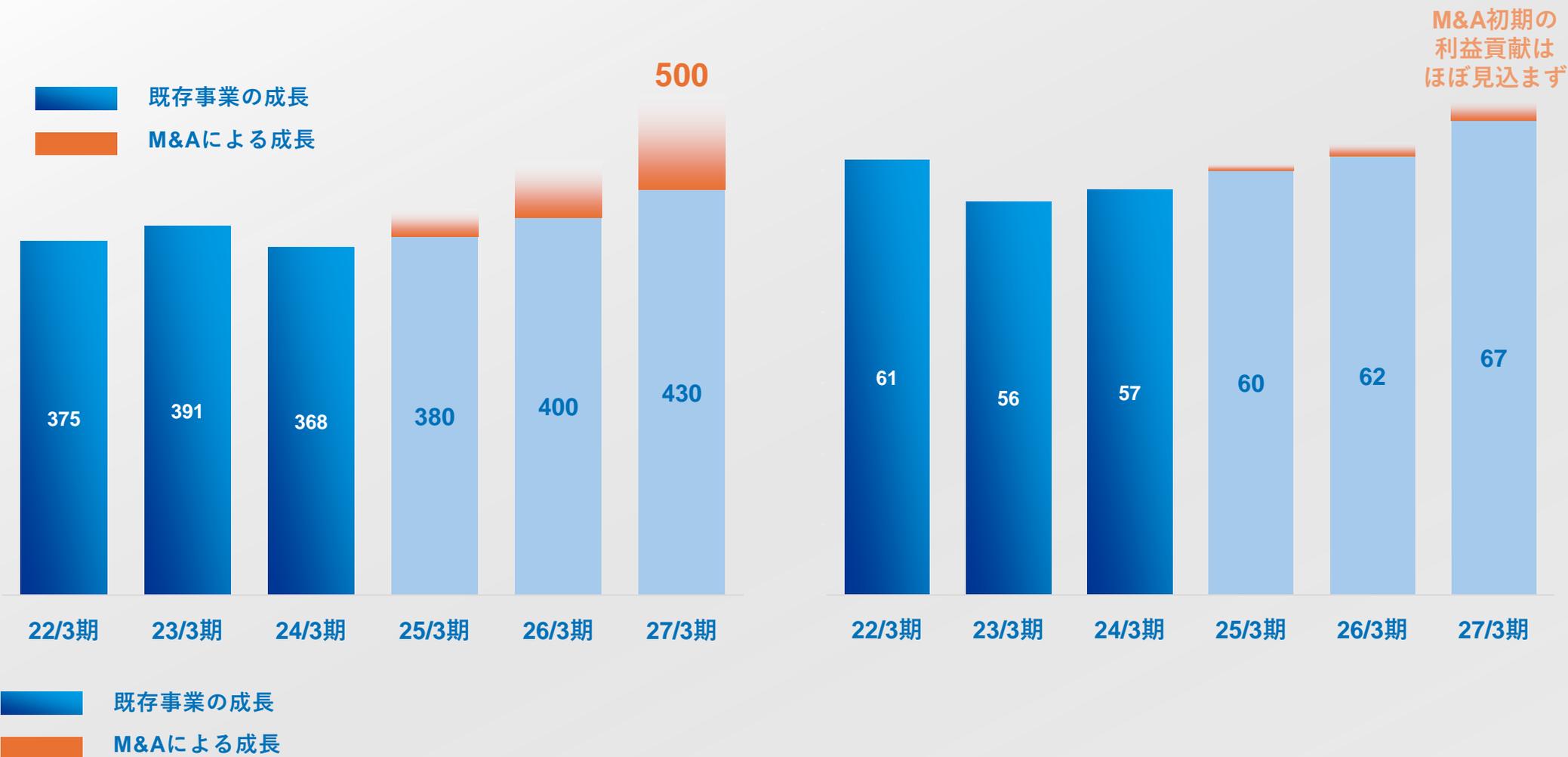


既存事業成長とM&A成長のイメージ

第3次中期経営計画期間において、売上成長についてはM&Aによる成長ポテンシャルは大きい
 一方、利益については既存事業の成長が中心となる想定 (M&A初期の利益貢献は見込まずPMIフェーズの改善想定)

■ 売上高における既存事業成長とM&A成長のイメージ

■ 営業利益における既存事業成長とM&A成長のイメージ



本資料の取り扱いについて

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。将来の見通しに関する記述は、本資料の日付時点の情報に基づいて作成されています。これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。

将来予想に関する記述には様々なリスクや不確実性が含まれており、その結果、実際の業績や財務状況は、将来予想に関する記述によって明示的または黙示的に示された将来の業績や結果の予測とは大きく異なる可能性があります。

これらの記述に記載された結果と大きく異なる可能性のある要因には、国内及び国際的な経済状況の変化や、当社が事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。また当社以外の事項・組織に関する情報は、一般に公開されている情報に基づいており、当社はそのような一般に公開されている情報の正確性や適切性を検証しておらず、保証していません。

本資料に関するお問い合わせ先

株式会社ベルテクスコーポレーション

経営企画本部 経営企画部

Tel: 03-3556-2801

